

来年度の予算案 子育て・教育への取り組みが前進

来年度の予算を審議する3月議会が始まります。来年度予算案には、子どもの医療費助成拡充や第3子以降の保育料無料化など子育て世代の強い要望であった支援策が提案されているほか、学級支援員の拡充など教育分野での前進面も含まれる予算となっ

ています。しかし、一方では中心市街地の再開発や政令市移行に向けたハード事業、合併3町の新市計画などハコモノ建設事業に多額の予算が計上されています。

来年度予算の前進面や課題などをお知らせします。

子どもの医療費助成が小学校3年まで拡充

子どもの医療費助成を入院・通院とも小学校3年まで拡充するための予算が提案されています（これまでは入院のみ小学3年、通院は就学前まで。予算が可決されれば10月より実施されます）。引き続き、益城町で実施をされているよう中学校3年生までの拡充を目指し頑張りたいと思います。

第3子以降の保育料無料化が実施

第3子以降の3歳未満児の保育料無料化（認可園）が新年度より実施されます（上の2人は18歳までが対象です）。子育て世代の経済的な負担軽減となり、少子化対策にもつながる制度です。



学級支援員が1校に1人配置

児童の安全確保や学習改善のために担任を支援する学級支援員は、これまでは一人が二校かけもちでの対応でした。新年度からは、1校に1人配置をされ拡充されます（52名⇒88名）。

日本共産党が提案する 子育て3つのゼロ

- ① 子どもの医療費は中学3年まで無料に
- ② 待機児・保留児をゼロに
- ③ 第3子以降の保育料をゼロに

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

ますだ牧子 上野みえこ なすまどか

熊本市手取本町1-1 議会棟3階

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

ホーム：http://www.jcp-kumamoto.com/

NO. 745

2011年2月27日

電話 328-2656

FAX 359-5047

3月3日 午前10時～

益田牧子議員が一般質問を行います

* 議会棟5階、傍聴にお出かけ下さい!!

(質問項目)

- 1、国保料引上げの問題点、保険料の引き下げ、無保険の解消
予防行政の充実、生活保護行政の専門職採用、体制強化
- 2、子どもの医療費無料化、待機・保留児の解消
国の「子ども・子育て新システム」反対を!
- 3、教室へのエアコン設置、ストーブ設置など教育環境の整備
- 4、大型国際会議場建設の問題点、内需拡大に繋がる市営住宅整備
など身近な公共事業推進、住宅リフォーム助成制度の実現
ワーキングプアをなくす公契約条例の制定
- 5、TPPに反対し、農漁業再生への転換、地下水涵養域保全
- 6、食肉センター廃止問題
- 7、合併・政令市移行の課題:区バスの運行の課題、保健センターは存続を!

(控室から) 益田牧子
市民への「おもてなしの心」を!
幸山市長は、国保料の一人約一万円引上げ、鍼灸・マッサージの回数削減(四五回を三〇回)など市民に冷たい予算を提案しています。
一方では、新幹線開業を機に、観光客に対する「おもてなしの心」を強調。「東アジアから選ばれる都市」を目指す九州・アジアの交流拠点整備予算は熊本城・熊本駅周辺整備等百十七億円。更に、桜町再開発事業として、大型国際コンベンション施設整備を進める基本構想策定予算を提案。「住みなっせ、熊本キャンペーン」と銘打ち、熊本市への定住促進を計っています。
国保料は、政令市と比べても、一番重い負担となり、合併した三町の皆さんからは、「こんなはずではなかった」と批判が渦巻いています。
「おもてなしの心」は、市民に対して、高い国保料を引き下げや鍼灸・マッサージ回数を六〇回へ戻すなどあなたがかい手を差し伸べることではないでしょうか。「住みなっせ」と言うためには、予算の主役を「大型開発優先」から、いのち・くらし・福祉優先への転換が求められます。



大型開発・ハコ物優先ではなく、暮らし・福祉の充実を！

駅前東A地区再開発・さくらの馬場大型観光施設に続き、 花畑町・桜町の大型コンベンション施設建設など再開発が続々

行き詰った桜町再開発事業(交通センター一帯)へ市が乗り出し、大型コンベンション施設を建設する計画が進められます。今年度の予算額は、基本構想策定経費750万円です。「熊本市内に3,000~4,000人規模の施設がないため、国際規模のコンベンション誘致が難しい」というのが市の説明です。具体化されていけば、百億近い事業となることも考えられます。大型コンベンション施設の必要性も十分に検証されないまま、ハコ物先にありきですすめられています。

産業文化会館を取り壊してすすめる花畑町再開発は、事業の見通しが定まらない中、2010年度の実施設計予算は未執行のまま、減額補正されましたが、2011年度は新たに5100万円の助成が予算化されます。

多額の事業費を要する大型再開発は、全国どこでも行き詰っています。それなのに、熊本市が駅前東A再開発・さくらの馬場大型観光施設に続き、さらに大きなハコ物建設をすすめていくのは、時代の流れに逆行しているのではないのでしょうか。

行き詰った「城南町中央土地区画整理」に 道理のない補助金・2億1300万円

「城南町中央土地区画整理」は、民間の組合施工による区画整理事業です。しかし、ずさんな事業実施の中で行き詰まり、合併の時点で、4億9,200万円の収支不足見通しとなっていました。そして、町の区画整理組合に対する貸付金が未返済のまま、熊本市へと5億600万円引き継がれていました。この民間の区画整理に対し、工事費・補償費・調査費・運営費など、2億1,300万円が補助金として、2011年度予算に計上されています。

道理のない民間事業への助成に市民の理解は得られないのではないのでしょうか。

駅前東A地区再開発 事業費6億円増、211億円

駅前東A地区再開発事業「情報交流施設・35階建分譲マンション」の建設事業費は、205億円から6億円増の「211億円」となります。本体工事費・用地補償費等

政令市移行準備経費も、約54億円

政令市移行の準備にも多額の費用が必要です。新年度予算額は約55億円

区役所整備 27億円
土木センター整備ほか 5億円
情報システム改修費用 19億円
その他(地番確定や家屋調査等) 2.4億円

区役所等の施設整備だけでも32億円、現行の保健福祉センターや市民センター(東)の活用などに努め、予算の節約を図り、区バスの運行等、住民サービスこそ向上すべきです。

冷たい山山市政！ 切り捨てられている医療・福祉

削減され続けている 針灸マッサージへの助成 1人年45回を「年30回」に

針灸マッサージへの助成は、年間の助成回数、1回当たりの助成額ともに年々削減され、次年度は年30回へと削減されます。

(年度)	年助成回数	助成額(円)	助成総額
2007	60	1,500	1億7800万
2008	60	1,000	9540万
2009	60	1,000	9053万
2010	45	1,000	予想9000万弱
2011	30	1,000	*

認可外保育園への補助金 予算の査定で、要望額カット

新年度の予算に、認可外保育園の助成拡充策として、「乳児保育に対する助成・約1,069万円」が新たに要求されていましたが、査定の段階でカットされました。園児賠償保険料・研修費・検便・衛星材料などへの前年並み1,750万円の助成予算となっています。

